

2. 現在の公園緑地における眺望景観の課題²⁾

前章「1-1 我が国の公園緑地と眺望景観の特徴」において示したように、我が国の公園緑地は古くから眺望の視点場として親しまれている。また公園緑地からの眺望は、必ずしも「園内」だけに留まらず、日本庭園の借景のように山や海、湖といった「園外」の自然地物が眺望の対象になっている場合や、展望施設を兼ね備えた公園のように主要な興味対象は「園外」にあり、公園緑地は眺望の視点場としての役割を担っている場合もある。

しかしその一方で、主に戦後の市街化の進展、建築物の高層化、屋外広告物の増加といった時代の流れの中で、公園緑地からの眺望が阻害されている、あるいは阻害が危惧される場合もみられる。

こうした公園緑地からの眺望保全を図る上での現状の課題としては、主に以降に示す3点が挙げられる。

課題①：園外の建築物によって園内への眺望が阻害されている

- ◆高さや形態・意匠、色彩がまちまちな建築物が見えてしまい、眺望が繁雑な印象になっている



◆直近に建設された高層建築物によって圧迫感が生じており、眺望が阻害されている



課題②：園外の建築物によって園外への眺望が阻害されている

◆主要な興味対象であるビスタのアイストップの背後に、ノイズとなる建築物が見えている



原爆ドームへの眺望

◆建築物によって、主要な興味対象そのものが阻害されている



山への眺望



園内から興味対象要素の島への眺望

課題③：園内の要素によって眺望が阻害されている

- ◆園内の植栽によって眺望が阻害されていることがある（園内の管理の問題）